

当院における臨床検査内部監査の現状と今後の課題

○ 岡田賢二郎 中上千尋 阪口綾子 柴田美智子
南澤真澄 久保修一 小倉健太郎 高部弘司
近畿大学医学部奈良病院 臨床検査部

[目的]

多くの業務管理規程には、PDCAサイクルの重要性が採りあげられている。

また、この中でも、Check（監査）システムの良否が、品質に大きく影響を与えることは広く知られている。

しかし、その実施にいたるプロセスは、明確なものがなく、各施設においても手探り状態ではないだろうか。

今回、われわれは、学校法人近畿大学内部監査規程に則り、主として日常業務の質の向上をめざすため、検査部独自の内部監査体制を構築したので、その構築過程と現行システムを紹介する。

[監査区分]

輸血管理

外来採血

集中治療サテライト

微生物

病理

生理機能

院内委託

[規程文書類]

奈良病院臨床検査部内部監査規程

奈良病院臨床検査部内部品質監査手順書

内部監査計画書

内部監査チェックリスト

不適合事項是正処置報告書

内部品質監査報告書

等

[体制]

検査部管理者

監査チームリーダー

各区分監査人 2名

[監査実績]

平成20年度 5S（整理、整頓、清掃、清潔、躰）

平成21年度 検査機器およびシステム管理

[考察]

ISO9001品質マネジメントシステム—要求事項 8.2.2内部監査に、「組織は、品質マネジメントシステムの次の事項が満たされているか否かを明確にするために、あらかじめ定められた間隔で内部監査を実施しなければならない」と記載されている。

平成20年度は、初めてのこともあり、内部監査体制を実施するにあたり、監査区分それぞれのチームが、業務の特殊性を踏まえ、個別の判断で監査をおこなった。

監査人、被監査人ともに試行錯誤ではあったが、実務に直結した詳細な部分まで、眼を通すことができた。

これにより、是正要求件数は26件となったが、すみやかに改善が実施され、質の向上に大きく影響を与える結果となった。

本来、内部監査は、関係者以外の職員において実施されることが望ましい。しかし、この欠点として、業務そのものの理解に乏しく、表面的な監査に陥ってしまうことが論じられている。

臨床検査など幅広い専門知識を必要とする業態においては、さらに大きな問題点がある。

今回、われわれが行った内部監査は、業務の本質を改善することが可能であり、過去、2回の実績ではあるが、効果は高いものと考ええる。

[今後の課題]

- 1 監査人の育成
- 2 監査指導の判断基準
- 3 監査前準備
- 4 被監査部署とのコミュニケーション

等

[結語]

内部監査を実施することにより、業務のコンプライアス、質の向上、職員の意識改革等、多くの利点があり、今後、よりよい監査体制をめざして、適時、改善を図りながら、監査体制を継続させていきたい。